



医療法人近森会

びろっば 10

Vol.231

発行 ● 2005年8月25日

www.chikamori.com 高知市大川筋一丁目 1-16 〒780-8522 tel.088-822-5231 fax.088-872-3059 発行者 ● 近森正幸 / 事務局 ● 川添昇

介護保険改定に ついての概要

在宅総合ケアセンター近森事務長 岡田 和久



先般 6 月に改正介護保険法が成立された。10 月 1 日から介護老人保健施設などの施設サービスにおける入所やショートステイの居住費・食費、そして通所サービスの食費が保険給付から外され利用者負担となり、同時に介護報酬単価は一部引き下げとなる。老人保健施設の居住費については、居住環境に応じた分類がなされ、従来型個室で部屋代と光熱水費相当分、多床室で光熱水費相当分が利用者負担となる。

一方、食費については、介護報酬からの食事サービス費が廃止され、現在、自己負担となっている食材費だけでなく、調理費も加えた額が利用者負担となる。同様に通所サービスにおいても食費は自己負担となる。居住費、食費とも利用者負担の額は施設と利用者の契約で決めるものとされている。

今回の改定は、国の低所得者対策はあるものの、多数を占める利用者の自己負担額増と、施設の収入減収といった非常に厳しい内容となっている。

● 10 月の歳時記 ●

杜鵑草 (ほととぎす)

文：リハ病院理学療法士 門田 千穂



しっとりとした趣が秋にふさわしい杜鵑草。その秋らしい風情が愛され、茶席の花としてよく用いられるそうです。名前は、花に入る紫の斑点が、夏鳥の「ほととぎす」の斑点に似ていることからつけられました。

神様が出雲に集まるため、神無月と呼ばれる 10 月。高く澄み渡った秋の日和に土佐の名所めぐりなどはいかががでしょう

こうした背景には、介護保険制度創設以来、介護給付費が年 10% 超の伸びを続けている現状があり、国の運用面からの「制度の持続可能性」が大き

な主旨とされている。

当老人保健施設「いごっばち」においても大きな経営的打撃を受けるが、今まで以上に、老人保健施設本来の役割である「在宅生活支援」を基に、より良いケアの提供を続けていくことが、これからの介護保険制度の中で正等に評価されていくと信じ、全スタッフ全力で取り組んでいきたいと考えている。

要介護者における 低栄養状態を改善する制度施行

栄養科科长 宮澤 靖



平成 12 年から始められたわが国の介護保険制度は、5 年目の見直しを迎えるにあたり、「明るく活力のある超高齢化社会」の実現に向けて、「介護予防」を重視し、制度としての「持続可能性を高める」こととなります。そ

こで、平成 16 年度に厚生労働省によって「施設及び居宅高齢者の栄養・食事サービスのマネジメントに関する研究会」が設置され検討することになりました。この研究会は、介護保険制度の理念のもとに、「人の尊 次頁へ続く

この夏、講演を頼まれたついでに、大阪国際美術館で開催されていた「ゴッホ展」を観に行った。ゴッホの初期作品から晩年の作まで系統的に観ることができ、その存在感や躍動感溢れる絵を味わうことが出来た。

振り返ってみると、この十数年前ぐらいから、学会などの出張のついでに、絵画や陶器などの展覧会やオペラなどの音楽会に時間をつくって積極的に行くようになっていた。

手帳に書いてあるこの 6 カ月ほどを繰ってみた

だけでも、8 月にはブロードウェイミュージカルの「シカゴ」。7 月には京都で「ルーブル美術館展・19 世紀フランス絵画」、六本木でのフィリップスコレクション展のルノアールの大作「舟遊びの昼食」など、そして高知でのオペラ「カルメン」。6 月には『ゴッホ展』。さらに「楽美術館」や西洋美術館で開

催された「ジョルジュ・ド・ラトゥール—光と闇の世界展」など、他の上野の美術館にも行っている。

回数を重ねることで、それぞれの芸術分野とその背景が、しだいに分ってくる。たとえばユトリロは自分の酒代

を稼ぐために必死で絵を描いていた頃は「白の時代」といわれ、最高の作品をつくった。

ジョルジュ・ド・ラトゥールの作品は、それまであまり有名ではなかったが、イタリアのダ・ヴィンチやオランダのフェルメールに

比肩されるフランスの画家で、ほとんどの作品が失われているため、日本でこうした展覧会を観なければ、私たちは目にすることが難しい作家だという。

美術や音楽を味わうことで、人間の到達点の凄さを味わう楽しみができるようになった。

(理事長・ちかもり まさゆき)

美術展や音楽会



近森 正幸

前頁から続く 廠であり活力の源である食べることを最優先し、生活機能の向上を図る」、「人間栄養学を基盤とする」、「栄養・食事サービスの実務を国際的水準へ引き上げる」、「多職種の協働」などの課題を取り上げ、栄養・食事サービスのマネジメント体制及びその実務のあり方について検討を行ってきました。成果としては、1 介護予防の観点から、低栄養状態の予防・改善を徹底するためには、栄養ケア・マネジメント体制を導入する 2 食事の質の

確保については、従来の集団給食から個別サービスに移行して、質的向上をはかると共に、評価の指標も大きく転換することを提案されています。従来の集団給食としての「モノ」のサービスから、個別サービスとしての「ヒト」へのサービスへと大きく転換しています。戦後から施行されてきた従来の給食制度を見直し、介護保険制度のもとに、個別の栄養・食事サービスとして、その実務の体系化並びにその質の確保を図ることを目的としています。

一方、高齢者の低栄養状態の予防・改善には、解決すべき課題が多岐にわたって山積みされています。そこで、栄養ケア・マネジメント体制の構築とサービスとしての「栄養ケア」は、多職種が協働して取り組むべき課題と言えます。この連絡調整を含めたマネジメント機能は管理栄養士の役割として位置づけることになりました。この制度は本年 10 月 1 日より施行されます。

みやざわ やすし

第 58 回救急症例検討会を開催して

近森病院整形外科科長 西井 幸信



左より根岸正敏 Dr、小松定男救急救命士、山崎正博 Dr、松尾光胤 Dr、衣笠清人 Dr、平方栄一 Dr、西井幸信 Dr、ER 山本靖代 Ns



去る 8 月 29 日に行われた救急症例検討会では、我々整形外科が担当させて頂きました。昨年の第 46 回で骨盤外傷をテーマに担当させて頂いて以来、当科では 2 回目となりました。

今回は頸髄損傷をテーマとして、近森会から 42 人、外部から救急救命士の方々をはじめ 32 人、計 74 人の出席者で若干少なめ(?)でしたが、救急部の根岸先生の司会進行でまずまず盛会の内に終えることができました。具体的には

1. 「カイロプラクティス施術後に環軸椎脱臼、脊髄損傷を来した 1 例」を松尾先生が担当、
2. 「診断に難渋した第 5 頸椎前方脱臼の 1 例」を小生が担当してそれぞれプレゼンテーションを行い、その後救急外来看護師の山本主任が ER での注意点、ヒヤリ・ハットについて発表しました。

救急の現場で頸椎保護を行うことはかなり徹底されているようで、気道確保が必要なときに頸椎保護と気道確保のどちらを優先すべきか? どのような症状の時に呼吸困難を来すのか? といった救急現場からの具体的な質問が

あり、また近森病院参加者からも頸椎外傷の診療における疑問などが質問されて有意義な検討会になったと思っています。

今後も質問や討論によってより充実

した検討会になるように皆様の積極的な検討会への御参加をお願い申し上げます。

にしい ゆきのぶ

わたしのこの一枚

癒しの時間

HCU 看護師 山中 恵

学生時代の友人に誘われ、ダイビングを始めました。写真は去年の誕生日に撮影してもらったものです。上下左右、自由に動き回れる感覚はまるで飛んでいるような気分です。

悠々と泳ぐたくさんの魚たちを眺めて



上の右側が山中恵さん。左が足踏で撮影したミナミハコフグ (05 年 8 月 13 日撮影)

いると、自分が陸上で生きようにつくられていると感じられ、うらやましくも思います。

喧騒からはなれ、鮮やかな自然色にかこまれると、なんともいえない穏やかな気持ちになれます。今の私にとって、大事な癒しの時間です。

第3回公開県民講座

平成17年9月17日カルポートにて『脳卒中は怖くない』というテーマで、「脳卒中」の急性期治療から亜急性期・慢性期リハビリテーションまでの一連の医療について神経内科、脳外科、リハビリ科の各医師が講演を行った。



高橋 潔

山崎正博

宮本 寛

脳卒中のリハビリテーション

在宅総合ケアセンターちかもりセンター長
宮本 寛

急性期には、廃用症候群の予防が中心で、入院当日からでもリハを開始して、急性期治療が終われば、速やかに回復期リハのできる病院に移ることが重要。

回復期リハでは、訓練室で「できる」ことは病棟生活の中にも取り入れて、繰り返し日常的に「している」ことが大切。入院を長引かせず、早く家に帰る方がさらに活動面でも改善される。

維持期には、いつまでも失われた機能ばかりを見ず、残存機能、能力で人生の再構築に目を向ける。

印象に残ったことが二つ

近森病院脳神経外科部長
高橋 潔

今回会場でいろいろな方と話をしていると二つのことが強く印象に残りました。ひとつは、神経疾患の患者さんは治っても障害が残っている方がたくさんいること。もうひとつは、患者さんの医師への思い入れは大変なものがある、ということです。

一般の方へ講演をするのは今回初めてのことで少し緊張していました。振り返ってみると話がどうも専門的になりすぎたようで、次回機会がありましたらもう少し一般的な話をできればと思います。



脳卒中は怖くない

近森病院神経内科部長
山崎 正博

神経内科領域では、「脳卒中」のなかで近年増加傾向にある脳梗塞について、病気の理解と発病したときの対応および予防について発表した。

脳梗塞は発症機序、症状、画像所見により3病型に分けられ、治療法、再発予防も病型ごとに異なることを紹介した。また、発病したときには「脳梗塞の診療は時間との競争である」ことを強調し、そのためにも24時間オープンで、病型決定に欠かせないMRI検査がいつでもでき、脳卒中専門医がいる病院を受診することの重要性を説明した。

予防は「とにかく血管をいたわる」ことであり、高血圧、糖尿病、高脂血症、不整脈、肥満、喫煙などの血管危険因子をコントロールすることの大切さを強調した。

地元新聞社の記者に取材を受ける近森正幸理事長



福祉機器の展示
会場風景

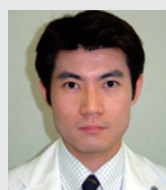


2001年12月6日、「改正保健婦助産婦看護婦法」が成立し、2002年3月1日から、「看護婦」「准看護婦」「保健婦」という名称が消えました。「看護婦・看護師」「助産婦・助産士」「保健婦・保健士」など、男女で名称の異なる資格名称を、「師」を付けた名称に統一、変更されました。したがって、「男性の看護婦(?)」はこれまでの「看護師」から、男女区別なく「看護師」となりました。音の上では「看護士」も「看護師」も同じなので、表面上は「看護婦」が消えて「カンゴシ」という音に統一されたような感じでしょうか。「男女平等…」といいながらも、女性名称のみが消失

聴診器

士と師

循環器科科長
關 秀一



してしまったことに、何か腑に落ちないのは私だけでしょうか…?

法律の施行後、4年近く経った今も、診察室から「看護婦さん…」、待合から「看護婦さん…」、マスコミから「看護婦さん…」と。でもいつかは、「看護婦」の名称は死語になってしまうのでしょうか?…ね。

追記:「栄養士」「理学療法士」「救急救命士」は「士」のままですが、心配は要りません。「士」が付くのは、代議士・弁護士・宇宙飛行士・博士など立派な人達です。一方、「師」が付くのは、詐欺師・魔術師・ペテン師・色事師などいかがわしい人物が並んでいますから…(笑)。

せき しゅういち



西山明恵

佐野登代子

7月10日(日)誤嚥性肺炎予防のための口腔ケアと腸管免疫の重要性についての実践セミナーが東京で開催され参加させていただきました。看護師、介護職の方たちが対象で全国から約400人の方が集まり会場は満席で口腔ケアに対する関心の高さを感じました。

最初に日本大学生物資源科学部教授/東京大学名誉教授の上野川修一先生が「免疫とは何か」についての講演があり、感染予防のためには口から食べて免疫力を向上させることの大切さを学びました。

看護師の立場から神奈川リハビリテーション病院前看護師長の小山珠美先生が経口摂取に向けてのこだわりあ

誤嚥性肺炎予防のための口腔ケアと 腸管免疫の重要性実践セミナー報告 看護現場における経管栄養から経口への具体的アプローチ

近森病院口のリハビリテーション委員

HCU 看護師長 佐野 登代子 6階西看護師 西山 明恵

る看護について講演があり、経管栄養から経口摂取、QOL向上を目指した経口摂取などへのアプローチを事例紹介しながら、人間にとって「口から食べる」ことの意義についてのお話があり興味深く聞くことができました。

歯科医の五島朋幸先生がとことん！口腔ケア 食べる機能を向上させるケア法と題して誤嚥性肺炎予防と食べる

ための口づくりという観点から口腔ケアについて講演がありました。話の中で「口は最後の食器である」と言われた時は考えてもみなかった言葉が印象的で今でも心に残っています。この言葉をいつまでも忘れず口をきれいにするために口腔ケアに力を入れて行きたいと思います。

防災訓練を終えて

災害対策委員

放射線科主任 山崎 明美



災害支援病院の指定を受け、平成13年度から毎年1回9月に訓練を実施しています。

本年度は自主登院と備蓄米の炊きだし訓練に焦点を絞って計画し、約100人の参加人数でおこないました。自主登院訓練では、午前8時45分に自



宅を出発し約20~30分ほどで登院された方が多く、1時間ほどで参加者全員が登院できました。普段何気なく通っている道や橋などが崩壊していたら・・・と、考える良いきっかけになったようです。炊きだし訓練では今まで栄養科にお願いしていた非常食の準備を実際行い、水を入れて約1時間おいしい非常食を作ることが出来ました。又、登院後に各エリアの防災備品の点検、病棟での担架の組み立ても行いました。慣れない担架の組み立てに苦労する部署もあり、災害時にスムーズに組み立てられるか不安の声も聞かれ、定期的な組み立て訓練の必要性を感じました。今回の訓練は小規模でしたが、今後の課題もでき意義あるものとなったと思います。参加された方々お疲れ様でした。

やまさき あけみ

ハッスル研修医・第5回

患者さんのための医療を 改めて実感！

はじめまして。研修医1年目の杉山淳一と申します。

出身は大阪府ですが、大学から高知に住み着いておりますので、かれこれ7年目になります。大学時代は弓道部で日々弓を引き、休みは趣味の釣りで高知の海岸沿いの漁港をはじめさまざまな場所を転々としておりました。おかげで？1年中真っ黒に日焼けしておりました。

早いもので、4月から数えるともう半年もの研修期間が過ぎてしまいました。そのうち5カ月は内科で研修を積ませていただいておりますが、患者さん、先生方、スタッフの皆さんに日々支えてもらいながら、教えて頂きながらあつという間の1日を過ごしております。

この近森病院はスタッフの方々が

杉山 淳一



各々の専門性を十分に発揮しながらお互いを支え合い患者さんのための医療を行う土台が昔から培われてきている病院だとこの半年で改めて実感しました。これからも2年間の研修で医師としての専門性を少しでも高めるとともに、先生方、スタッフの方々に教を乞いながら自分の中に近森病院で培われてきた土台・理念を少しでも多く身につけていきたいと考えています。

どうぞよろしくお願いいたします！

キラリと光る看護 その21

人としての尊厳が
保たれている介護

★ 看護部長 梶原 和歌



私事で恐縮だが母が老人保健施設いごっばちでお世話になって1.5カ月になりました。家族の立場で療養室に入りますの機会が増え、介護福祉士たちの朝・昼・夜、八方に気を配りながら適切な介護を確実に個別的にしていくなりの姿に心打たれているのでぜひともケアワーカーのキラリをとりあげたいと思います。

1987年に社会福祉専門職の一つとして日常生活に支障がある人の入浴、排泄、食事、その他の介護をおこなう国家資格の職種として制定されました。医療現場では「看護、介護」職は協働関係にありながら医師、看護師などメディカルな歴史の古い職種が幅をきかせています。

一方老人保健施設ではその医療色よりも療養者の生活の安寧と自立にむけたゆるやかで明るい温かいムードがありその先導役が介護職のようです。病院ではなぜか教えを乞い小さくなっているかのように見える家族が、ここではのびのびと余裕の自然体で接しています。

病院での看護者は今までの習慣で指導的、指示的な言動を端々で見聞しますが、ここではケアワーカーたちはどの家族にも節度をもって丁寧な言葉で接しています。認知症の方が多い6階フロアでも療養者への態度は見事です。どんなに呆けていても人としての

尊厳がきちっと保たれるような身についた態度、言葉に接するとこちらの心が洗われるようで、母にもやさしくなれます。

健康管理センター
かわら版

仕事とストレス・こころの健康 1

メンタルヘルスの四つの誤解と悪影響

「ストレスたまっていますか？」と質問すると多くの方は「はい」と答えます。仕事や人と接している限り、大なり小なりなんらかのストレスにさらされて、みなさん生活しています。ストレスは人生のスパイスだ!! といわれますが、スパイスが強すぎても困りますね。ストレスは、みんな顔が異なるように、感じ方、受け止め方も異なります。

近年、こころの健康問題(メンタルヘルス)がクローズアップされてきました。メンタルヘルスに問題が起これば、企業にも良い影響を与えません。一緒に仕事をしている仲間がこころの病気に罹ってしまった……、決して他人事ではないですよ。誰にでもこころの健康問題は起こりますから、決して「特別なこと」ではありません。さて、こころの健康について一緒に考えていきましょう。

こころの健康四つの誤解と四つの悪

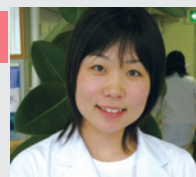
介護のやりがいがあってどんな時?と聞いてみると、「介護を拒否していた人が自分を受け入れてくれてニコッと笑顔を返してくれたとき」とか「私を待っていてくれる方がいるということがすぐありがたい。あれもしてあげたい、これもしてあげたいと思って動いているとアラララと時間が過ぎて、一日が終わり、仕事が残ると自分の要領が悪かったかなと振り返る」という。

この人たちの純なエネルギーが正當に評価され、また彼らも自分の専門性に目覚め療養者や家族の一番の理解者でありつづけることを祈りたい。

かじはら わか

産業保健師

野口 由美



影響。メンタルヘルスにありがちな誤解と企業への悪影響が四つあるといわれています。(参考資料:NTT 東日本関東病院 秋山先生の“高知こころのケア講演”資料より)

四つの誤解には

- 1 メンタルヘルスは自分に関係ない。
- 2 メンタルヘルスが起きるのは誰かの責任だ。
- 3 メンタルヘルスは治らない。
- 4 薬に頼らせたくない。

四つの悪影響には

- 1 作業能力の低下
- 2 長期休務
- 3 周囲への影響
- 4 経済的負担があります。

つづく

シリーズ●わたしの趣味

ヨーガ 第二分院作業療法士
松本 妙子

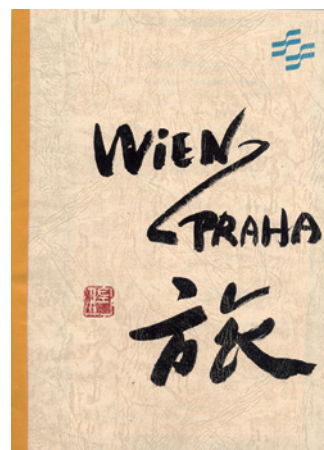
いま流行りの「癒し」と「肉体へのご馳走」の決定版!というように佐保田鶴治阪大名誉教授創設のヨーガをご紹介しますのが分かりやすいだろう。

松本 OT が26年ほど前、このヨーガを始められたきっかけは「自分で長く続けられる、身体のためになること」をあちこち探した結果、動きに合わせてゆっくり呼吸をし、「調身、調息、調心」といわれるヨーガの極意がご自身に「いばんしっくりきた」からだった。

スキの体位
瞑想

いま患者さんたちとも週一でこの教室を開き身体にやさしいヨーガを実践されている。一日の決まった時間帯にほんの15分程度でも毎日実践すると、自分の血流を意識できるようになり、疲れがとれたり自律神経とホルモン系のバランスを調えたり、肥満解消、肩こりや頭痛を治すなど、その効用は計り知れないほど大きいそうだ。

WIEN PRAHAの旅行記



去年ウィーン、プラハに行った旅行記を第二分院5階病棟看護師の山崎マリさんたちのグループでつくりました。

第13回・秋の運動会



女性による騎馬戦玉入れ



綱引き1位のリハチーム



みんなでおいでよ「お菓子ひろい」

第13回近森会運動会は高知女子大学 池キャンパスの体育館にて、9月18日の日曜日、9時30分から14時30分まで昼食をはさんで5時間の熱戦と出し物が行なわれました。200名を超える参加者があり、4グループに分かれて応援合戦でも盛り上がり、競った結果は、リハ科チームが優勝しました。（健康管理センター 梶原麻世）

「借物競争」仮装したみんなで記念撮影



ハードゲイに仮装した宮本先生



続 管理部長の カンタンこだわり料理 (14)

鯖の煮付

鯖は一年中美味しいが、特に脂ののった秋鯖は最高である。地球の温暖化やら獲り過ぎといったことから最近漁獲高が減っているらしいが、依然とポピュラー首位の座は譲っていない。さまざまな食べ方がある。なかでも清水サバの刺身は絶品だが、タタキにしてよし、江戸前風のシメ鯖のにぎりもこたえられない。また、じゅうじゅう油のしたたる塩サバもうまいし、冬はブツ切りにして、ニンニク葉や豆腐とともにスキ焼風の「煮食い」も懐かしい。こんな風に鯖の食べ方を上げればキリがないが、最近ハマっているのがシンプルな「鯖の煮付」である。

○材料

- ①新鮮な鯖1本
- ②白ネギ（東京ネギ）1本 白いところを4cm ぐらいの長さに切る
- ③しょうが1カケを3ミリぐらいの厚さでスライスしたもの
- ④酒・濃口しょう油・味醂・黒砂糖 分量は好みで

絵：ラポールちかもり
久保博美



○作り方

- ①鯖の頭とわたを取って、3~4にブツ切り
- ②沸騰したお湯に①を入れ約1分で止める。水洗いし上げておく。
- ③④を鍋に入れて煮立ったら②の鯖と③を水をかぶるくらいまで入れ、落とし蓋をして、強火で沸騰したら中火で10分間ぐらい煮る。好みの味をチェック。
- ④鯖を引き上げ煮汁を中火で煮つめツヤが出てきたら再び鯖と②を入れ15分位煮汁をかけながら煮て出来上がり。身がまだ白い状態であること。

○食べ方

鯖の味がしっかり残っている身をほぐしながら煮汁をからめて食べる。べっこう色になったしょうがとヌメリの出たヤワヤワのネギの味がこれまた good。味の強弱は煮汁のからめ具合で何なりと楽しめる。

煮汁の甘みは黒砂糖であることから、奄美の黒糖焼酎・オンザロックスが合口だが、前日より4分6に水で割って冷蔵庫で冷やしておいたものがあればなおよい。

秋の夜長をこうして過ごすことの幸せをつくづく感じながら。

白玉の歯にしみとほる秋の夜の酒はしづかに飲むべかりけり（牧水）

川添 昇

講演のお知らせ

2005

看護管理フォーラム

一看護の専門性と
キャリアデザイナー

主 催：近森会看護部教育委員会
日 時：平成17年10月15日（土）
9：00～12：00
会 場：近森病院管理棟5階会議室
基調講演：「看護職のキャリアデザイン」
講 師：廣瀬千也子先生
（日本看護協会常任理事）
発 表：田元孝子、西岡由江、
山下佐和、乾 静
入場無料

看護部教育委員会では上記の勉強会を開催します。看護師だけでなく、他職種の皆様方もぜひ参加していただけたらと、お待ちしております。

第29回地域医療講演会

第10回医療安全セミナー

テーマ「浣腸による
直腸粘膜損傷の予防対策」

内 容
・ 浣腸の知識・認識度における実態調査報告 手術室看護部主任 津野裕紀美
・ 直腸粘膜損傷の事例紹介
消化器内科科長 青野 礼
・ 直腸解剖について
消化器外科科長 井上 敦
グループディスカッションと全体会議
・ 浣腸の手順作成案発表
新館4階東病棟看護師 佐々木りえ
日時 平成17年10月14日（金）
18：00～20：00
会場 コンフォートホテル高知駅前

第30回地域医療講演会

演題「ICDの精度管理と
DPCデータの分析活用」

※ DPC：疾病別一日定額包括支払制度
講師 佐藤 正子 先生
日鋼記念病院 診療情報管理部 課長
日時 平成17年10月21日（金）18:00～
会場 ホテルサンルート高知

自分のやっていることを 喜んでもらえる幸せ

自分のやっていることを周りのスタッフが「助かる、ありがたい」と喜んでくれる。土日を読んで月曜日に出勤すると「居てくれる有難さが判る」と若いスタッフが言ってくれる。自分のやっている看護助手という裏方の仕事が具体的に役立っていると思えるのは、周りのスタッフが喜んでくれるからだ。これはかなり「やり甲斐につながる」ということらしい。だから、おかげで毎日がとっても楽しいという。朝も早くから出勤しないと何だか「惜しい」気がする。5時15分に起床し、朝食後はさっと始発のバスに乗り7時には「いごっばち」に到着。勤務は8時30分始まりだが、利用者の皆さんに会いたいし、気がつくことをやっておくと後の仕事がやりやすいとスタッフに喜んでもらえるから、早く職場に着きたくてたまらないのだ。

それでも2年前、新館5階西病棟から「いごっばち」に異動になった最初は、やたらに早く出勤して却って押し付けがましいことになってはいけな



「母のおかげで娘に成人式の振り袖も立派に着せられました」と恵美子さん。家ではいつも母に感謝、娘と息子に感謝感謝！

いと、じつは周りに気を遣っておられたみたい。すこしずつ様子を見ながら、周りのスタッフに溶け込んでいったのだろうが、恵美子さんにとっては「娘のような年齢のスタッフと、親のような年齢の利用者に囲まれて、自分が役に立てることがあれば嬉しい！」と、そんな決意のスタートだった。

そもそも、近森会との出会いは前の職場で「どうやったって人間関係には気を遣うしかないし……」と少々諦めていた頃、近森会に勤められていた看護助手の木山アイ子さんが「どなたか助手をしてくださる方はいないでしょうか」と、恵美子さんの母上のお友達

「こうしてシーツをセットすると、どのようにくら動いていただいてもびくともしません(笑)」



「我が道を行く母」恵美子さんの自慢の母。息抜きしつつ、また元気に家族の面倒をみてくれている

に相談され、恵美子さんは「病院の助手って自分には好きなタイプの仕事じゃないかしら!？」と、ピンときた。そこで話はトントンと進み、新5西へ就職が決まったのが9年前。

結婚相手とは「まあ何というか価値観の相違のようなもの」で別れ、「人並みな苦労はあった」そうだが、こうと決めたらゼッタイ動じないし、クライ好きのハッキリした母上に、影に日なたにと助けてもらい、つまり、ご自身の母上には「ホントにもうお世話になりっ放し」なのだそう。

ほとんど「野放し状態で育てました」という子どもたちは立派に育ち愛媛県でそれぞれが好きな道を進んでくれている。母上に「あんたばあ呑気^{のんき}で幸せな人はめったに居らんよ」といわれるそうだが、十分ご本人には自覚がある。若い人たちから若さのエキスをもらいながら、利用者の諸先輩方には晩年の過ごし方の貴重なヒントをいただきつつ、「毎日が勉強」だと思っている。

山本満壽子施設長からは、「周りが仕事をしやすいようにいつも考えてくれる『いごっばち』になくてはならない人」と、何より恵美子さんの頑張る心に直接響くエールが送られている。あー、いいなあやり甲斐いっぱい楽しそう。

リレーエッセイ

大自然に囲まれて「ボー」っと

画像診断部 井土 貴史



高知に来て、はや5年半が過ぎました。

高知に住みだした当初、何を考えていたかは今では覚えていませんが、海を見に行くことが多かったです。1100ccの自慢のバイクに乗って、海岸沿いをながしながらふとバイクを止め、ボーっと海を眺めていました。180度大パノラマの海が広がりどこまでいっても海・海・海で水平線が遠くに見え「海ってホンマに広いんやな～」と感動したのです。(子供みたいですが本当に高知の第一印象がこういう感じでした)

またある日には、夜にぶらぶらと車で山へ行き、真っ暗な場所に車を止め、空を見上ると無数の星が夜空に輝き、足元にも光ったり消えたりとホテルがありました。実際にホテルを見るのは

初めてで、その上膨大な星の数で、天然のプラネタリウムといった感じでした。

大自然のなかでボーっとしていると、時間も忘れ、心も和み、身体の疲れも忘れ、とてもリフレッシュできると思います。5分とか10分でもかまわないと思うので、一度皆さんも大自然のなかでボーっとしてみてください。リラックスでき、日ごろの疲れなど吹っ飛ばしてしまうことでしょう。

まだまだ、私の知らない自然の楽しみ方というものがたくさんあると思います。「あっ!」とか「おー!」などと驚いたり、感動したりするものをどんどん見つけていきたいと思っています。

何処か大自然が感じられる良い場所があれば、是非教えてください。

いつち たかし

シリーズ●クリニック探訪10

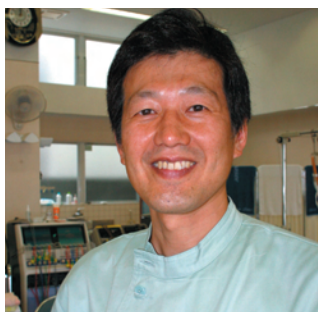
▼リハビリテーション室は 170 m²とゆったりしています。夏の終わりの一日、昼休みに記念撮影



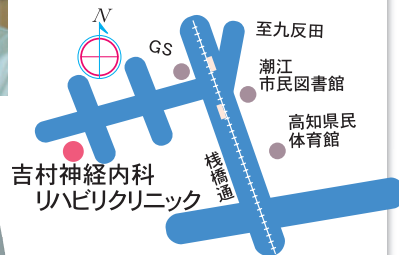
院長・吉村耕一。S34年9月5日、高知市生まれ。趣味は旅行と読書

吉村神経内科リハビリクリニック

(高知市百石町二丁目 2-1) tel. 088-832-6431 fax.832-6432



診療科目 ● 内科、外科、消化器科
放射線科、神経内科
リハビリテーション科
診療時間 ● 午前 8:30~12:00
午後 13:30~17:30
休診日 ● 土曜午後、日曜、祝日



最新号の「よしむら通信」15号では看護の現場の今を特集しています

内科、外科を中心に地域医療を実施しています。

CT、エコー、24時間心電図、呼吸機能の検査ができます。リハビリは理学療法士による訓練を実施しており、特にパーキンソン病、脳卒中後遺症の継続的なリハビリについては専門医の立場から力を入れています。

情報公開を心がけ季刊で「よしむら通信」を発行し、地域の皆さんと当院をつなぐ掛け橋の役割も持たせています。

図書室便り

(8月受入分)

- ・必携 細胞診カラー図鑑 / 水口國雄 (監修)
- ・組織病理アトラス 第5版 / 小池盛雄 (他著)
- ・マクロ病理アトラス 第2版 / 西山保一
- ・ナースのためのコーチング活用術 / 柳澤厚生 (編集)
- ・QT 質問思考の技術 / マリリー G. アダムス
- ・ICF 国際生活機能分類—国際障害分類 改訂版— / 世界保健機関 (WHO)
- ・WHO 国際障害分類 第2版 生活機能と障害の国際分類 / WHO 国際障害分類日本協力センター (編集)
- ・社会福祉辞典 / 社会福祉辞典編集委員会 (編集)
- ・物語としてのケア ナラティブ・アプローチの世界へ / 野口裕二
- ・障害をもつ人にとっての生活の質—モデル、調査研究および実践 / 中園康夫 (他監訳)
- ・明日のグループ診療 / グループ診療研究所 (編集)
- ・ケアマネジメント / ジョアン・オーム (他編著)
- ・医療ソーシャルワーク実践 50 例 / 大本和子 (他著)
- ・ソーシャルワークにおけるエンパワーメント—その理論と実際の論考集— / 小松源助 (監訳)
- ・コミュニティメンタルヘルス—新しい地域精神保健活動の理論と実践— / ロレン R. モシャー (他著)
- ・ケアマネジメントと地域生活支援—精神保健福祉の新たな展開— / 公衆衛生精神保健研究会 (編集)
- ・高齢化社会の基礎知識—今を理解し、21世紀を展望するためのキーワード— / エイジング総合研究センター (編集)
- ・高齢者を介護する家族 エンパワーメントアプローチの展開にむけて / 和気純子
- ・べてるの家の「非」援助論そのままがいいと思えるための 25 章 / 浦河べてるの家 (編集)
- ・精神障害者への偏見とスティグマ ソーシャルワークリサーチからの報告 / 白石大介
- ・変わっちゃうろうか 私たちの中の精神障害者へ / 高知県立精神保健福祉センター (企画)
- ・精神障害めぐって メンタルヘルスはなぜ必要か / 吉川武彦
- ・こころの病いと家族のこころ / 滝沢武久
- ・こころの病 私たち 100 人の体験 / 全国精神障害者団体連合会 (他編集)
- ・レセプト・カルテ記載のための ICD-10 対応 標準病名ハンドブック 標準病名マスター ver.2.40 / 医療情報システム開発センター (編集)

《ビデオ・DVD》

・VIDEO JOURNAL of Japan Neurosurgery vol13.No3. / 日本脳神経外科学会 (監修)

編集室通信

★暑い夏が終わりましたね。この夏は“歌って走ってキャラバンバン”を見るのが毎晩の日課でした。高知県内を舞台に地元の人が暑中、熱唱する姿は、土地の風情もあってか、歌の上手下手に関わらず、熱唱する大人、振り付けを一生懸命練習した子たち、応援する人、うちわで扇ぎながら座っている観客、観客をのせるアナウンサー（実はテレビ高知竹内さんのファン）など、和気藹々とした雰囲気は、夏を実感させる唯一の一時でした。

★毎年恒例の院内旅行の日程の案内も届き、旅行計画にうつつをぬかす今日の頃、ひろっぱもカラーになって、“院内旅行特集”とまではいかなくても、きっと特集するに違いない！旅行する人もしない人も、旅行はもちろん、食欲・芸術・趣味など秋を実感していきましょい。

(濱)

8月の診療数

近森会 外来患者数	20,787 人
近森会新入院患者数	790 人
近森会 退院患者数	820 人
地域医療支援病院紹介率	80.52 %
近森病院平均在院日数	15.70 日
近森会 平均在院日数	24.59 日
近森病院救急車搬入件数	421 件
うち入院件数	189 件
手術件数 (手術室での)	240 件
うち全身麻酔件数	131 件

企画情報室